宗像

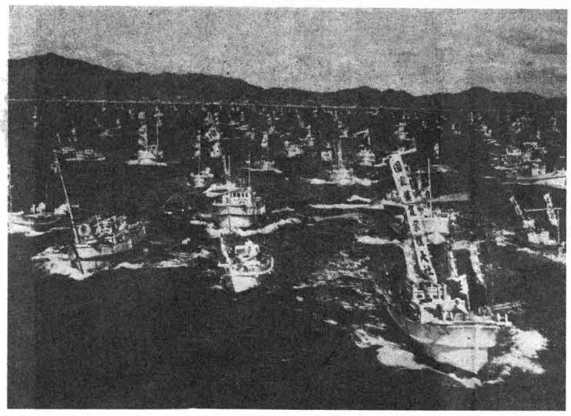
行所　宗像大社
発行日　毎月十五日
発行人　宗像大社

福岡県宗像郡玄海町
電話 09406 ㊁ 1311 代

定価　一年送料共 1000円

神具、装束
結婚式場用品
九州店　福岡市博多区東公園二―三一（〒八一二）電話福岡㈹五二―九四五六番
本社　京都市上京区小川通今出川上ル小山北大路町（〒六〇二）電話京都㈹二三一―一三一一（代）・二〇六番

株式会社　井筒



秋季大祭近づく!!

十月一日より三日迄

当大社秋季大祭は爽秋の十月一日より三日まで斎行される。

秋季大祭は「たしま放生会」と呼ばれ、古くは仲秋の名月（旧暦八月十五日）を中心として行われたものであるから約七百年程前、貞永元年、時の大宮司氏経が始めたものと伝えられている。又、別伝「宗像大菩薩御縁起」によると、「吾れ青、五十九百余の従神を率いて、二千余り里の風浪を渡りて御長手（旗竿）を振い異国（新羅）の凶賊を害した。是れは則ち国のため、民のためとはいえ、若干の殺罪を犯すところがある。よって早く放生供養すべし」と記して、八月十三日より同月十五日の三日間供養が行われた事を述べている。

又、放生会には宗像三所宮（総社、第二宮、第三宮）の神輿と共に、許斐、織幡両宮の神輿合せて五社の神輿が浜殿（神湊）に勢ぞろいして祭典と共に船競べ等の色々な神事が行われたものである。極めて盛大な神賑いであって、天正年間（今から四百年前）、大宮司氏貞没後、この大放生会は昔日の如き華かな面影は薄れたものへ、それでも宗像氏子の最も伝統ある最大の「祭り」として今日に至っている。

近年、古来行われて来た「みあれの祭」を復活、十月一日には、沖津宮、中津宮の二宮の御神輿を奉戴した二隻の御船を先頭に宗像郡七浦漁民の金船約五百隻が供奉し、白波の玄界灘を大島より神湊まで海上一十五粁をパレード する海上神幸は、将に当大社秋季大祭の圧巻ともいうべきものである。

秋季大祭は左の通り斎行される。

昭和五十二年秋季大祭日程

月日	時	祭典並神賑行事
九月三十日	午前九時	高宮祭、地主祭
同	〃十時	辺津宮出御祭
同	〃十一時	みなと祭
同	午後六時	宵宮祭
同	十月一日 午前八時半	中津宮出御祭
同	〃九時半	大島港御発輦
同	〃十一時	屯宮祭引続き御発輦
同	正午	辺津宮入御 一日祭
同	十月二日 午前八時	風俗、浦安舞、氏子奉幣
同	〃十時	流鏑馬神事
同	〃十一時	秋季大祭 二日祭
同	十月三日 午前十時	翁舞
同	午前十一時半	中学校相撲大会
同	午後二時	秋季大祭 三日祭
		風俗、浦安舞
		宗像護国神社祭
		献茶祭（南坊流）

論説

夫婦愛問答

═病夫の膿を吸う妻═

明治から大正昭和にかけて、長く国民教育の規範として聖典視された教育勅語は、軍国主義の色彩をもつとの理由で戦後は廃止となった。特に一部の左翼教職員は、一旦緩あらば義勇公に奉ずる示唆をひどく嫌った。よく思料すれば軍国主義と決めつける本質はないが、皮膚な見解に押し切られたとみたい。

現代でも、国家に一旦緩急あれば、国民として義勇を発揚すべきが当然である。ここではそれを論じまい。最も異論や反対のない「夫婦相和し」を摘出して、教育改革の急務が叫ばれながら基本理念の定まらない錯雑な論議の中に、進路を喚び覚ます資料として述べたいものがある。

必ずしも厳密には夫婦愛とし難い例も挙げるが、家庭親和の精神を強調したいからである。

「不幸病魔には勝てなかったが、献身的な看病をいつも嬉しく思っていた。改めてお礼を言う。達者で二人分長生きをしてくれ」と、遺書は妻に対する万感の感謝が綴られていた。戦時中の暗黒の世情に哭いた至純で、そして強烈な妻の愛の花は美しかった。

戦場での負傷に体質の特異性も加わって、軍病院から除隊となった夫は、次々にひどい腫瘍のため病床生活を続けていた。医薬品も入手困難な田舎の医師の治療は十分ではなく、腐乱した皮膚から出るうみしるに苦悩した。注射その他の処置は届かなかった。

妻は遂に病夫の皮膚に口を当てた。膿を口で吸った。夫の苦しみを和らげ回復を念ずる妻の悲願には、何人も手を触れることさえ躊躇うほどしるの出口は滑くなかった。医者に叱られそうな無衆な処置を妻は敢えて行ったのである。

女性の愛情を、妻の場合と母の立場とに分けて、夫婦愛と言い母性愛と言うも、その発動に二個の愛の泉はない。強烈で至純の愛情を必要とする時、異常な超人的発動ともなる。その例は世上少くはない。

「わが子を救う母の愛、げに獅子よりも強かりき」と結ぶ西欧詩の翻訳を読んだ記憶がある。フランスでの出来事、獅子が檻から逃げて街頭に現れた。市民は隠れ家々は戸を閉して珍客の襲撃を恐れたが、無心の幼児独り街に残され人々は安否を見守るだけで、救護に駆けつける者も居なかった。まさに猛獣の爪牙にかかる危険を、敢えて冒す無謀はしない。

突如、髪を乱した女性が、幼児に襲いかかろうとする猛獣の前に飛び出して、幼児を抱いて走った。母である。決死の無我の母性愛は勝った。愛児の生命は助かり何らの傷も負わなかったのである。母性愛の勝利は光った。

至純の愛は、美醜も危も超えて発動する。殊に数十年前の大戦の中、戦争そのものの批判はともあれ、多くの兵士を戦場に送って、いわゆる統後を守った妻や母は、日常の生活の中に美しいものを残した。

戦争は忌まわしい。誰も望まないのが当然である。然し、祖国はそうならなければならない。火災を避けるための予防処置は十分に検討されねばならないが、不幸にして万一の危局が発生した時、理屈だけ列べて傍観するわけにはゆかないのである。

その意味で、美談は終われぬ方がよい。平凡こそ無事である。今日の社会事情それに複雑な経済関係の絡む対外情勢、求めなくても身に降りかかる火の子がある。

最近、当局が幾種かの争議や訴訟の統計を発表した。妻が提起した離婚訴訟は著しい増加を示している。原因は、昔は物質面不如意の生活苦から出る場合が多かったが、現代世相は違う。

病夫や子供を捨てて家出する妻、ロッカーに赤ん坊を放置する若い母、それ程何らかの理由が当人としてやむを得ない方途と納得させているかも知れぬが、貧成は出来ない。病夫の膿を吸う妻や猛獣かに愛児を導く母の至純な祈りに比べれば、人間的にも程度の低い悲しむべき非行である。

道義教育と銘打てば、書物でも話合いでもソッポを向かれる時勢である。書店での書物の売れゆきを探れば、学生はじめ若い層が鹿爪らしい道義論教など、微塵も興味をもたないことが確言出来る。バス停留所、電車待合室、場末の喫茶店など、学生の去ったあとに残るものは、漫画本である。漫画は嬉悲を語らない。

沖中両宮秋季大祭
十月二十六日　午後五時　宵宮祭
十月二十七日　午前九時　沖津宮大祭
同　〃十一時　中津宮大祭
氏子奉納演芸

〝玄界灘〟

海と神と人

―宝物館特別展開催―

宗像大社宝物館では、十月二十四日（月曜日）から十一月三十日（水曜日）までの約四十日間、特別展玄界灘―海と神と人―を開催するはこびとなった。

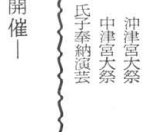
宗像大神の鎮座地として古い由緒に富む宗像地方は、その形状を俯瞰すると不規則な六角形に似て北、東、南の三辺は慨ね山岳をもつて他郡に接し、他の三辺は玄界灘に面している。

そして、この海岸線は「ひろげたパラソルのふち」と形容されるように岬や岩礁、砂浜が交互に入りくみ孤状を描いている。更にこの沖合を南内諸島に源を発する黒潮の分流、対馬海流が日本海を北上し、年間平均約二六度、雨量約一、六〇〇粍程度の温暖な気候をもたらし豊かな風土を育くんでいる。

ここに宗像大神を奉斎して、海を舞台に活躍した「宗像海人族」と呼ばれる古代氏族が存在していた。彼等はこの肥沃で温暖な宗像地方を基盤として大陸へ日本各地へと活躍の場を拡げていった。また宗像海人族の斎き祀る宗像三神は、陸地から隔たること六十粁の玄界灘の真只中沖ノ島の沖津宮と大島の中津宮、田島の辺津宮の三宮に祭られ、古来より皇室の篤い崇敬をうけ国家鎮護の社として祭祀が行われてきた。

この三宮の鎮り坐す所は、古事記、日本書紀には「海北道中」と記されており、重要な海上の道であったこのため沖ノ島では国家的な大祭祀が行われたことは史上著名な事実である。

この度の特別展は、玄界灘を中心に対馬海流によってもたらされた南方文化と朝鮮半島を経由して南下した大陸文化の接点としての宗像地方の特性を明らかにし、古代文化摂取の門口に於て活躍した宗像海人族の足跡を歴史的、民俗的、地理的に考方面からたどり、その偉大なる業績と現代社会に投影することを目的としたものである。



阿蒙少言

吉備団子から富士の白峯まで、昔から日本一を誇るものは多種多様。この頃ではスポーツが記録を競って、日本一の栄冠を目指す。犬や猿が魅せられて命がけの鬼ケ島征伐を申出たのは、吉備団子の日本一の味に因るとは、商法よく心得たもの●霊峯富士の日本一は高さ姿勢気品どの点を挙げても他の追随を許さない。詩歌絵画に親しまれた国宝的存在、世界一と名乗っても異論も出まいが、現代の国際情勢を考慮すれば、日本一で我慢するが賢明●スポーツは別として、経済政治教育芸術などの各分野の日本一は、怪しいもの許し難いもの羨しいもの等の特性がジャーナリズムの好ク憎しみの波に乗って付きものの選挙に、人気票が集て日本一と報じられても感心する人は少い。タレントが政党の頭数には影響しても、その手腕など何の役にも立たない●祭り給うな、今東光氏が政治屋におそをつかして「お楽人さんは黙って下さい」と海千山千に鎌味を投げられた不愉快さを、退陣の弁に挙げているではないか●選民の脱稿にも日本一があって、記録新者の出現を待つかに見えるも面白い。芸能界に至っては、日本一の折紙の舞台裏は、まさに雑多奇。宣伝効果を高めて日本一になりたい為、金が撒かれるの当然の話だが、離婚再婚の声明まで日本一の看付けに関係ありとは驚く。犬猿が日本一と認めて貰うたか否かの吉備団子の単純さなど、到底歯牙価値の珍言に比べると足もとにも寄れぬ●ドライブインに限らぬが国道筋に見る飲食店の看板が、日本一の言葉に赤丸までつけて吸引力を発揮しているのもほほえましい「日本で二番目にうまい大盛うどん」の看板もあった。二番目が味噌だが、同類の中では逸品に属すると賞めたい。

（白雲）

第九四回　宗像大社歌会詠草

毎月一日〆切　詠草到着順

池田　永富　臻
かかげたる画像を客に問われたり父はあまりに若く逝きにき

八幡西　安川　浄生
五十年心を洗う心地して今日郷土誌の校正終る

福岡　吉田　信夫
息絶えて今はむなしき部屋番の目にしみて来てその座に堪えず

無　名
月月に跡むむ大社のお産先木もれ日さして蝉のしづくる

宮田　北原　君子
人並に我にも届きぬ年金の証書開きて老をいとほしむ

宗像　中村　幸
磯菜に黄粉に青菜の呟くや秋祭の来る季待つわれも

戸畑　田中ハツセ
昼寝の子毛布抱くにとりされば空をつかみて手を洗がしめ

福岡　吉村　三郎
銅像を巡り走りし老人は帽子手にして汗を流しつ

武丸　原田　リノ
畑仕事に疲れて横になりるたり覚むれば誰か浴衣をかけつつくぼうし秋告ぐるがに

香椎　桜井　ツ子
降り待ちむぐべ思へば手習ひし朝兄弟出征ちし日の母思ふ祈りて待ちて逝きし母思ふ

津丸　松尾　豊
休暇明け明日は学へ帰える孫の無心の午睡毛あらふに

徳重　石松や寿子
植えおきし花に心を残しつつ子よ帰りて一年過ぎぬ

田熊　力丸　一郎
台風に黒雲駆けるそのうえの雲も流れて空は険しき

田熊　今村　重刀
盆過ぎて社の森にしきり鳴くくつくぼうし秋告ぐるがに

香　椎　桜井　ツ子
降り待ちむぐべ思へば手習ひし朝

田　熊　驚津かつ代
平家びとほろび海にときのこえ旗指物のせめぐまぼろし

田熊　吉田　直志
夜の更けにふと目さむれば聞へくる鵜の鈴虫のさやかなる声

無　名
玉砂利に刻む足音さわやかに拍打ては心あらわる

津屋崎　谷口　礼子
むせび泣く兵士の声す黎明の兵舎埋む草はみ罵慰む

田　島　吉武　武雄
株刈り終えて皈るや尾根の道啼く鯛の声いと涼し

武丸　立石　昇
庭隅の草とる我にオハヨウと声かけて行く新聞少年

吉　武　白木うめの
薬も苦も共につつこの人は笑在る不平を我に言わなかり

宗　像　中村　幸
茫々と福ノ海を見つつあてわれの心はさらはれいきぬ

深　田　中野　節子
老びの歌なと詠まぬと決めし夜の卓に頭輪は若く黒き目を持つ

曲　天野トモエ
盆に来る子等ぐつるき思ひやり三枚のゆかたせっせと縫へり

武丸　立石ろせ乃
薄給を割きて建てたる家に子ら家族四人が住みて安らぐ

田　島　楠　理
バインダの音激しさを増す秋の空稲穂の波は見るみる刈られ行き

武丸　原田まつ代
朝露の滴る萌えにな蝉の音やわらかく言れ遣すましつ

池　田　占部ユキ子
出揃いし稲穂の中を農薬をまきて歩めりたそがれ近く

福岡　林　まつえ
立秋とは屋の上のみと語りしにつくつく法師かそのタ鳴けり

津屋崎　浜津　鴻浪
杉苔を口にわえて割りにけり旅の夕餉のわびしかりせば

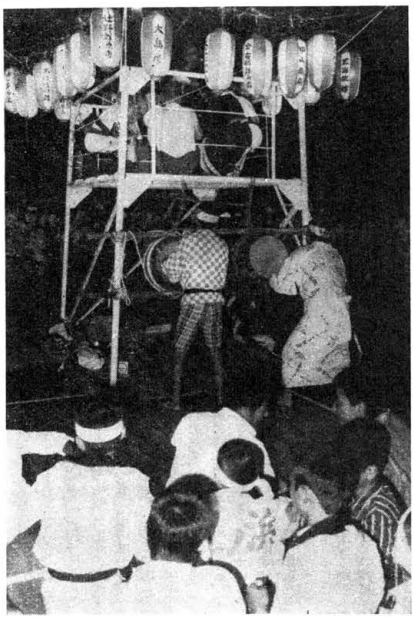
田　久　立花　勇雄
老大学びし墨絵の鳳凰入念にかきて孫に送りぬ

津屋崎　占部　由久
鯛のなきそめしより蛸の声やゝ衰へて来ぬ月となりて

東　郷　田中　春子
夏の日に咲く花なりし百日紅の覗ける塀の横を通りき

東　郷　藤崎　辰子
摩周湖を見下す丘の雪のなか探りて青き雅苔を摘む

宗像郡郷土芸能大会
第一回まつり宗像盛大に開催される
═玄海中学校新体育館に於いて═



台風七号の影響か、八月二十三日は朝より空一面に雨雲が覆い、雲のしは刻々と早くなり、宗像大社大駐車場で行われる、宗像郡郷土芸能大会並に第一回まつり宗像の会場設営は、誇張されながら一応機等の準備が終った頃より、ポツリポツリと雨が落ちて来た。

地元玄海町教育委員会並に各町準備委員は、舞台等諸準備の為、雨天の場合の会場である玄海中学校の新体育館に会場を変更するか、迷いに迷よった挙句、伝え来る台風情報により雨天会場玄海中学校に決定され、一部出来あがった会場も撤去され、急遽会場変更となった次第である。

開演時間頃には雨足も強くなったが、続々と各町出演の応援につめ寄せた見物客は、第一部のフィナーレ・蒙祖太鼓の熱演で最高に盛りあがり、会場あふれる参観者となった。

この催しは、本年度で第三回を迎えた宗像郡郷土芸能の発表会（この会は宗像郡に於ける郷土芸能の保存及び振興をはかり、宗像郡に於ける文化の向上に寄与することを目的とする）郷土芸能振興会の主旨にもとずき、又今年は特に西日本新聞創刊百周年を記念し、

一、新しいコミュニティづくり
一、農園芸振興について
一、これからの沿岸漁業について
一、宗像の古代文化をみなおす

宗像の考える四つのシンポジウムを始め、文化、体育、レクリエーション行事が企画され、逐次開催されてその一環としてまつり宗像が開催された次第で、八月二十三日午後に時より前述の玄海中学校の新築なったばかりの体育館で、開催のはこびとなったのである。

その発表会の内容は次の通りであります。

第一部　まつり宗像
フォークソング
夢来人（むらびと）
ペグ　子供主体
マンガのテーマソング
蒙祖太鼓
第二部　宗像郡芸能発表
日の里音頭　一〇〇名出演
鐘崎子供盆踊り　一五〇名出演
福間許婆太鼓　一名〃
宗像大社風俗舞　一〇名〃
宗像町光岡盆踊り　四〇名〃
津屋崎町在自獅子舞三〇名〃
以上の如く、夏の夜の更けるのを忘れさす、熱演であった。

〝日の里〟
県のモデルコミュニティ
指定をうけて

宗像町日の里は西日本最大のニュータウンとして開発され十一年目の里まつりを挙行いたしました。

人口二万数千、その世帯数は三千数百に及び、マスタープランによる八十五万坪二万人の達成は目前であります。

一方、このマンモス団地に共通の都市的肥大化の中で、異質の住民意識が色々の角度でぶつかり合う現象が見られるので、心の通じ合う日の里へ、近隣の友好と、老若男女の融和と、何よりもこどもたちにふるさとを、と希って十周年を契機に永続的行事としての日の里まつりを挙行いたしました。

連日数千人を越える住民の輪が二日間主会場を圧し、大盛況でした。

近年各地方自治体は新らしいコミュニティづくりを指向した長期総合開発計画を進めていますが、たまたま日の里地区は本年八月十日を以て県のモデルコミュニティ地区の指定をうけました。

日の里コミュニティの動向は一地方団地の問題にとどまらず、新しい都市づくりを決定する上での重要な位置を占めること思います。特に本町のように新旧住民がほぼ半数ずつを占める地域でのコミュニティの推進にはいろいろとむつかしい問題があろうかと思いますが、日の里地区住民全員の意識調査を基調として怠まず弛まず出来るものから一つ一つ着実に、おらがの町づくりに取り組んでゆきたいと思っています。

県、町のご指導と、皆さんのご理解と、ご協力を得てモデルコミュニティ日の里の大任を果たしたいと思ってありますので、よろしくお願い致します。

日の里新町内連合会
会長　佐伯一明

特別展〝玄界灘〟
展示品紹介

一、海人の足跡
縄文時代（沖ノ島生活遺跡、宮司町下ノ府遺跡、八貝塚、津屋崎町今川遺跡出土品）
弥生・古墳時代（沖ノ島生活遺跡・祭祀遺跡、新宮町夜臼遺跡・玄海町神像貝塚、玄海町新波止貝塚）
二、海に生きた人々
玄界灘周辺の魚具、絵馬、鐘崎海女用具（県指定）
新宮浜イルカ漁（天保年間）
同　オッセイ（明治年間）
同　網（天明年間）
福間浦　同（安政年間）
津屋崎漁業の図（文政年間）
同　同　（大正年間）
三、漂着の歴史
南方より対馬海流により運ばれたものヤシ、漁具、魚介類及び生活用具。
当社蔵寛喜三年の古文書記載

×

展覧会場　宗像大社宝物館
期　日　十月二十四日～十一月三十日（無休）
講演会　福岡センタービル
講　師　岡崎敬（九大教授）谷川健一（民俗学者）
主　催　宗像大社
　　朝日新聞社
後　援　福岡県教育委員会
　　福岡市教育委員会
　　新日本教育図書

尻馬に乗つて

人間が動物と異る特徴として、人間には恥を知る心があるからと云う。それは否定されない。然し、直ちに力の霊長と威張られると、何も鳥獣魚介の肩を持つもりでなくても反発が起る。

恥を知る心、それが霊長のしるしが。先ず恥を知る心に疑問が湧く。人間が動物と異る特徴の優れた人間は巧言令色鮮し（すくなし）仁と論語が指摘している通り、名利に強烈な欲望があるからこそ云々は、それは肯定したい。舞台裏では仁も義もない場合が多く、鳥獣が持たぬ貪欲の醜悪がベールの奥に隠されている。

空腹を満たし貪欲を満足させた動物群は、必死に獲物を求めて残虐な段に訴えても追及する。ライオン山野の活動を実写フイルムに見てわかる。ところが一旦獲物を得た肉食のライオンは、周辺に小動物が現われても知らぬ顔で見向きもしない。彼らの満腹の無欲恬淡、それは獲物にありついたライオンの姿にあっても、人間様にはない。ライオンの知らぬ粉飾の芸であり、ごまかしであって、舞台裏は霊長どころか、魚鳥最下位の獣以下の感があります。

先ずそのお尻を、草紙のしがみにかけてみたくなっただけに前置きが長くなって、遂にライオンまで登場した。名利財宝に限りない執着を持つ点をあげて採点に入れば、万物の中のどん尻は人間様に外ならない。これでもお尻の等性は結論になっていようが、もう少し蛇の持たぬ脚をつけて、どん尻を強調してみたい。

新聞の地方欄の片隅に、戦没者叙勲と小さな見出しが年に二、三度目につく。国家に生命を捧げて、規定は位階なる官等がお定まりで、規を遥かにしてクリーン車と名乗る。国鉄は遥かに遠ざかる。

尻すぼみ、尻込み、尻ぬぐい、一度大臣の椅子に坐っただけで従三位、鬼のあだ名がつく商売屋が勲三等。お尻の八等でも苦情を出さぬ英霊が災の毒でたまらない。

残筆しがらみ草紙 (9)
玄陽隠士

お尻のくらいは八等だけで明白だが、昔中国から仕入れた位階勲等などもうめてかろう。本場の中国では、毛さん周さんが正一位大勲位になった話はない。国鉄は金で乗れる。二等三等と客車に差別のあった時代でも、切符買いに身分の差はない。それが今一等寝室関白は威張る主人、その位置にかけて、となると軽蔑感をだが、昔中国から仕入れた位階勲含む主位感がある。お尻のくらいは第一に安感のなることに気づいたが、安感のある「お尻に敷く」という中年女性の堂々たる勇姿も迎えねばなるまい。お尻に敷くほどのお尻のくらいは高い。

ただ一箇

ともあれお尻は身体全体から見た位置が上等でない。屁餅をつくなどの動作も、ユモアはあっても品位はない。お尻のくらいが低下される主因は、ここが糞尿の下水口排泄溝となっているからである。この役目も必要不可欠だが、あまり陽の目は見られない。

ましてや時折ガスを噴出して、被告の第一声「裁判長よ、屁をこいて下さい」。

悪いもの一手引受け型では、お尻は最高でも、こんな関白に位相当の力量を期待することは難しい。

その関白享主を尻に敷く中年女性となると、当然安定感が物言う。この女性は多くの場合肥満型で、お尻に敷く重量感も伴う。関白享主も頭が上がらぬ肥満は、概して日本語が極めて巧い。そこで「へこたれる」仕末にもなる。

頃不思議にガス連発には、我ながらびえかに驚いている。或る裁判の被告に、放屁が法廷の神聖を無視するほどの大家がいた。肝心な処で緊張の腰を折るので、遂に裁判長はたしなめた。次回の公判日被告の第一声「裁判長よ、屁をこいて下さい」。

筆者の老骨は、胃袋を洗除して食道と腸を直結している名輪者である。もう切除して十四年になる。ひどい胃潰瘍で赤痢の院長は全快を宣言したからである。

中国大陸の野戦砲兵だった老骨、軍務に精励しないでヤンチューに。神前かも知れない。この頃不思議にガス連発には、我ながらびえかに驚いている。或る裁判の被告に、放屁が法廷の神聖を無視するほどの大家がいた。肝心な処で緊張の腰を折るので、遂に裁判長はたしなめた。次回の公判日被告の第一声「裁判長よ、屁をこいて下さい」。

悪いもの一手引受け型では、お尻は最高でも、こんな関白に位相当の力量を期待することは難しい。

その関白享主を尻に敷く中年女性となると、当然安定感が物言う。この女性は多くの場合肥満型で、お尻に敷く重量感も伴う。関白享主も頭が上がらぬ肥満は、概して日本語が極めて巧い。そこで「へこたれる」仕末にもなる。

ともあれお尻は身体全体から見た位置が上等でない。屁餅をつくなどの動作も、ユモアはあっても品位はない。お尻のくらいが低下される主因は、ここが糞尿の下水口排泄溝となっているからである。この役目も必要不可欠だが、あまり陽の目は見られない。

ましてや時折ガスを噴出して、被告の第一声「裁判長よ、屁をこいて下さい」。

こうのかなと湊神
(71)

楠早鳥作
福田長庵画

絵海中津　（その五）

「時に良公、京へ上ってどれほどになる」

絵海が話題をかえた。

「さて、もう半歳の上にもなりましょうか」

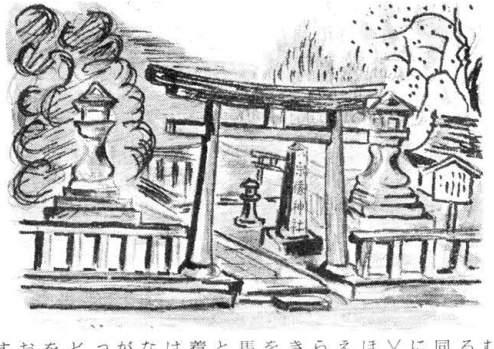
明継の応えをうけて八太郎で見物をしていないところがあれば案内をさせよう〳〵と絵海がもちかけた。〈別にそれほど見たい所とてないが、ただ御所の内に鎮り坐すという宗像社に主役像をおり托さる畏敬が無かったのを顧みて、足下から出たものか、そして取寄せた珍宝の用途は、将軍に対する献上物か尋閣の要人への贈り物か明継は道々それのみを考え続けた。その姿を垣間見る影が一つ京の街を走った。

この神は、もと日神の媛神にまします天孫降臨に先立ち、天孫を助け奉りて、天孫に奈良への神勅を奉じて筑紫の道に天下り給うた。今日、御所の内に鎮りまして事に合点をしながら絵海は部屋を出た。

翌朝、けたたましい百舌の鳴き声に目を覚ました明継は庭におり秋の空気を胸一杯吸った。女人を近すけず一夜を過したやかさが身体中にみなぎった。かって味ったことのない感情に身をひたしむと語ったことがある。何時の間にか己も同じような考えを自然に抱くようになったかへと思うと何故か顔がほころんだ。朝餉をおえると絵海が手配したらしく、社人が迎えにきた。櫛に納めた贈物を自ら拝がせ明継は馬に乗って館を出ようとすると門前に荷駄が着いた。何だ、これは不審気な明継のまなざしの前に一人の男が膝をついた。笠をとった顔を見て〈弥太が方にて〉驚きが胸をついた。馬から跳びおりる明継の耳もとにすっと弥太の声が入った。

「しかし、何故御所の内に祀られたのかな」

子細らしく小首をかしげて問う絵海に曇みかけるように明継は声を励して言葉を続けた。〈されば内舘の仰せで珍奇な品を様々とり集めて持参しました。何でも絶海中津と言うお方から館に書状が参ったそうです〉と伝えた。弥太は返書に「日本国王」と書いたのを思いだした。〈あの一事にても、この男には相入れぬところだ〉と奉ったと伝えられている。この後、摂政藤原道長も深く〈この社を崇敬し寛弘四年二月二日には神馬を献じている。降って建治元年、卜部兼文の勘奏により、四度の官幣に預った。〉



しかし、この男の思想は幕府にとって危険ではなかろうか、絶海はかつて将軍義満が明王に対する参詣の次第を話し明継は再び馬上の人となった。何故、絶海はこの企てを直接大内義弘にもかけたのか、またはたして絶海の意志なのか、それとも斯波義将あたりが糸をつけた。〈弥太がどうして〉驚きが胸をついた。馬から跳びおりる明継の耳もとにすっと弥太の声が入った。

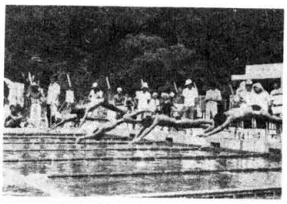
〈されば内舘の仰せで珍奇な品を様々とり集めて持参しました。何でも絶海中津と言うお方から館に書状が参ったそうです〉と伝えた。弥太は返書に「日本国王」と書いたのを思いだした。〈あの一事にても、この男には相入れぬところだ〉と奉ったと伝えられている。この後、摂政藤原道長も深く〈この社を崇敬し寛弘四年二月二日には神馬を献じている。降って建治元年、卜部兼文の勘奏により、四度の官幣に預った。〉

「しかし、何故御所の内に祀られたのかな」

子細らしく小首をかしげて問う絵海に曇みかけるように明継は声を励して言葉を続けた。〈されば

初秋のもと 郡民体育大会開催

―玄海町当番会場―



八月二十八日、日曜日、爽やかな初秋のもと、宗像郡々民体育大会が、玄海中学校を主会場とし、玄海小学校・玄海東小学校に於て、陸上・軟式庭球・柔道・剣道・バスケットボール・バレーボール・卓球・弓道の各種目に亘って、一、五二八名の役員・選手参加のもとで行われた。

昭和五十二年度は、玄海町主管町として数度に亘り、会場及び準備に協議会が行われた。今年は幸いにも玄海中学校の新体育館の建設完了と隣接の玄海町運動広場・野球場・テニスコートを大会前に完備し、剣道・柔道・卓球を除く六種目が、広範囲にわたって主会場で行われる設備となり、各種目とも手に汗を握る熱戦が展開され、声援も運動広場を始め各会場をゆるがす盛大さであった。

大会は、午前九時役員、選手団入場、開会宣言に始まり、国旗の掲揚、大会々長の挨拶、最後に選手の宣誓で役員選手退場し、各競技場に別れ熱戦が繰り展げられ、勝ては喝采、負ても拍手のスポーツマンシップにもとづいた爽やかな内容であった。

種目別・種別・性別の内・陸上・軟式庭球・剣道・バスケットボール・バレーボール・卓球の六種目が町村対抗競技であり、得点がそれぞれ一位より五・四・三・二・一点とし、順位がつけられ、尚各種目の得点が総合され、総合順位がつけられた。

ちなみに各種目順位、総合得点は左表の通りであった。

初秋の涼風が吹きわたる頃には、庭球を除く各種目終了、午後五時には閉会式が行われ、総合優勝宗像町に大優勝旗が、加藤武夫大会々長より手渡され終日健斗された大会も盛会裡に幕をとじた。

尚施設等の問題により競技種目になかった水泳競技種目が本年度より新たに組み入れられた。水泳大会は七月三十一日玄海東小学校の二十五米プールに於て開催され、郡内各町村から小学校四年生以上、学生・一般・青壮年に至るまで総勢百八十余名が参加し記録を競いあった。

町村対抗競技得点表

	陸上	軟式庭球	剣道	バスケットボール	バレーボール	卓球	合計得点	順位
宗像町	1	4	5	4	5	4	23	1
福間町	5	5	1	5	3	3	22	2
津屋崎町	3	3	3	2	4	5	20	3
玄海町	2	2	4	3	1	1	13	4
大島村	4	1	2	1	2	2	12	5

完成間近な 宗像町新庁舎

〝老朽化、タコ足配置、借屋住いに、不便な庁舎〟と町民をはじめ、職員間からもその悪評、不満の絶えなかった宗像町役場庁舎も今年度末には解消されることになった。

昨年十一月、現庁舎より旧国道三号線の反対側二百米の所に『新庁舎建設計画』が決定し、以来、田地を埋立て、取付道路の拡張整備を終えて、起工式を行い、工事は順調に進み今年十二月初旬には、落成、業務開始となる予定である。

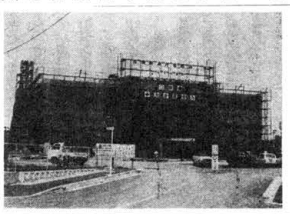
新庁舎建設の概略をみると、総事業費約十二億円、総敷地面積二八一〇〇平方m、建物の延床面積は本館六、一六八平方m、附属棟六九四平方m、建築様式は本館鉄筋コンクリート三階建、口字型中庭園式をとり、一階は町民への窓口を主体とした各課事務、来庁者体憩ロビー、中庭には宗像町のシンボルを模型にした憩いの庭園とするなど、住民サービスに留意されたフロアーとなっている。二階は、町長室をはじめ管理、事業部門の諸機関があり、町政執行上の中枢部となる。

三階は、町議会議場をはじめ議長室、事務局等議会関係並に教育委員会の執行部門となる。

新庁舎の特徴としては前記の通り口字型建築をとり、中庭を設けると共に一階は全面フロアーとして支柱等は一つもなく諸手続に来る住民にとって非常に利用しやすくなっている。玄関を入ると二階までの吹抜フロアーとなりその左側には休憩ロビーがありこの壁面にはモザイクによる壁画も作製される。その他、通風、彩光にも気を配り、明るく、モダンな建物となっている。

外周を見ると四方は盛土を行い植樹で囲み、内側は、玄関ロータリー、三〇〇台駐車可能の駐車場、四季各種植物庭園等を設け「町民憩いの広場」として広く来庁者に開放している。

尚、現庁舎は明治四十三年に建築されたもので郡内でも最も古くこの間、幾多の宗像町史の中心の場として風雪を経てきたが、今年をもってその任も終息となる。跡地利用については、種々の計画がなされている。



第四回交通安全キャンペーン シートベルト着用で安全運転!!

第四回交通安全キャンペーンが去る八月十一・十二の両日に亘って、夕刑フクニチ新聞社主催、宗像警察署、日本自動車連盟並びに宗像大社の協力によってなされた。

例年城山峠で行われるこの安全運転キャンペーンは、盆を控えて関東・関西をはじめ中国地方から東名、名神さらに中国自動車道をあるいはフェリーを利用して、郷里へ、または休暇を利用して九州一周の旅へと急ぐドライバーに対し、交通安全の大神が鎮まるこの宗像管内をはじめ九州管内での無事故を願って行われている。

八月はシートベルトの着用強化月間。県警交通部長も自からこのキャンペーンに姿をみせ、指導に汗を流していた。

又本年は、古賀〜熊本間の九州自動車道の開通によって、高速自動車道を利用する車も多く、高速運転での事故に対して、シートベルトの着用は、最も大切な一つである。

この為シートベルト製作社である高田工場からも、社員を派遣しシートベルトの着用方法の指導を行った。全ての車が安全に対し充分な設備を備えているにもかゝわらず、それを利用しないドライバーの多いのは残念であった。

尚、日本自動車連盟からは、各車の無料点検サービスがなされた。この点検では、ブレーキランプの不良又はフラッシャーランプの切れなどがめだち、係員も汗だくで点検サービスにあたった。

ちなみにこのキャンペーンには、宗像大社より交通安全のお守二千体と、安全運転ステッカーを、又夕刊フクニチ新聞社から冷たいオシボリ三千本が準備され各ドライバーに、安全運転を願いつゝ手渡たされた。

話題の新車をみる (三)

ミニカAMI55シリーズの巻

三菱自動車は六月二十日、ミニカ5のボディを新規格の枠一杯に広げ、五四六CCのフルサイズ・エンジンを搭載した軽自動車、ミニカAMI55を発売した。

『AMI』とは、フランス語で〝友達〟を意味するが、ミニカAMI55は現存する新規格の中で唯一のFR駆動車。すなわち、MAX・CUORE発表時で各社の新規格軽をみると、五三年排出ガス規制をクリアしたレックス550とフロンテ7ーS（2サイクルE）が共にRR車、CUOREがFF駆動となっている。

今回のAMI55は、従来のミニカ5の全長を三〇〜四五mm延長、全幅を一〇〇mm拡大、フロント及びリヤエンドのデザインを改め、〝シンプル&ワイド〟のボディ・スタイリングが特徴で、全幅の拡大により前後トレッドは、それぞれ一〇〇／一一〇mm、室内幅も一〇〇mm大きくなり、キャビンスペースは新規格軽の中で最も乗用車らしい軽となった。だが、トレッドの拡大による最小回転半径の増大はなく、三、九mで従来と同じ。

エンジンはサイレント・シャフト付の静粛な4サイクル、ニューバルカンSエンジンでこれまでの2G22型エンジンのボアを六五mm→七〇mmへ広げ、ストロークは七一mmと同じ、圧縮比も九、〇と変わらない。

最高出力は三一PS／六〇〇〇rPm、従前の三〇PS／六五〇〇rPmに比べ、1PSのパワーアップされ、最大トルクは、三、七kg／四〇〇〇rPmから四、一kg／三〇〇〇rPmに高められた。

また、排出ガス対策は五一年。システムはMCA。六〇km／h定地燃費は、三一km／ℓ。

トルクの余力を見込んだファイナル・レシオの変更は、最近のレックス550にも見られ、これによって走行回転数を下げ、連続高速走行の場合には、燃費面で威力を発揮しよう。

内装面の特徴では、①大型シートの採用がげら挙れるが、幅五〇〇、奥ゆき四二五mmでシート幅は軽の中でトップとなった。②軽初の強制ベンチレーション付の頭寒足熱型ヒーターの採用。

安全装備面では、③スキンタイプの大型バンパー、④三点式連続シートベルトと自立式バックル、⑤大型インパネ・パット、⑥熱線プリント・リヤ・ウインドウ（除バイSTD）の採用等が主な特徴。

スタイリングの主な変更点としてフロント・エンドとリヤ・エンドでカラード・バンパーと粗目のラジエーターグリル採用により、ミニカ5のイメージはほとんど消えたといってもよい。

東京価格 （単位万円）

ハイSTD	五四、五
スーパーDX	一六一、一
GL	一六三、五
XL	一六五、八

第一回宗像大社小倉百人一首 〝かるた大会〟開催要綱決る!!

この度当社では青少年育成事業の一環として又情操教育の目的を計る為に小倉百人一首〝かるた大会〟を開催するはこびとなった。

九州・西日本地区の「かるた道」愛好家は勿論のこと一般の方々を集め「宗像大社」の神域に今秋よりいよいよ盛大に繰り広げられることになった。

この〝かるた競技〟に対する人々の関心は今や静かなブームを呼び、各地において益々盛んに競技が行われている。

当社ではこの伝統ある和歌の心を少しでも多くの人々の認識を深めて頂くことを目的に、九州かるた協会との間で計画が次々と進められ、来たる十一月十三日（第三日曜日）に決定した。

この時期は当社にとっては永年の懸案であった御復興事業の完成の年でもあり、七年前の昭和四十六年十一月畏きあたりより勅使の御差遣を迎き盛大なる遷宮遷座の大祭が行われた時を記念して行われることになった。

その計画は次の通りである。

名称 第一回宗像大社小倉百人一首かるた大会。

主催 宗像大社、九州かるた協会。

後援 玄海町教育委員会
夕刊フクニチ新聞社
FBS福岡放送局
全日本かるた協会
灘波潟。

とき 昭和五十二年十一月十三日（日曜日）

ところ 福岡県宗像郡玄海町
宗像大社。（鹿児島本線・東郷駅下車・東郷東口よりバス八分）

大会実施要領

◇かるた競技種目

★個人戦（七階級）
（いづれも全日本かるた競技規定に準ずる）

A級 有段者（含大学生、一般）
B級 一般（〃 〃）
C級 高・中学生（在籍有段者）
D級 高校生
E級 中学生
F級 小学生（六年生〜四年生）
G級 小学生（三年生以下）

★初心者競技・チラシドリ大会

◇競技会場
宗像大社・清明殿
・斎館
・宿衛舎

◇競技時間
個人戦（各級共）
受付開始 午前九時より
競技開始 午前十時より
チラシドリ大会
受付開始 午前十一時より
競技開始 午後一時より

申し込み要領

◇官製はがきに
住所（郵便番号）
氏名、年令、学校名、学年又は職業、電話番号
希望競技種目
所属かるた会名
段位・級の有無
昼食弁当がいる、いらない。

を明記の上、左記へお送り下さい。

尚各かるた協会、愛好会等で多数お申し込みの場合は、便箋に明記の上、封書でお送り下さい。

送り先
（〒八一一ー三五）
福岡県宗像郡玄海町
宗像大社
かるた大会係
でんわ 〇九四〇六ー
二ー三一一（代）

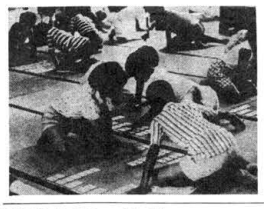
締切
昭和五十二年十月三十一日（消印有効）
（出来るだけ事前に申し込んで下さい）

以上

以上の様に決定致し当社としては出来る限り多くの参加を期待している。

今回は特別に九州かるた協会の原田会長より、宗像大社の小倉百人一首かるた大会によせて玉稿を頂戴したので多くの方々に知って頂く為に記載することにした。

第一回宗像大社の小倉百人一首 かるた大会によせて



小倉百人一首は、今から約七百五十年程昔、藤原定家がその令息夫人の父、宇都宮頼綱（後蓮生となる）の住居、嵯峨小倉山荘の障子（現在の襖）に貼る色紙の染筆を懇望され、第三八代天智天皇から第八四代順徳天皇まで、凡そ五百七十年余にわたる勅選歌（古今、後撰、拾遺、後拾遺、金葉、詞花、千載、新古今集）の中から名吟と認められるものを年代順に抜いたものである。

この百人一首が遊ぎ用として創案され、流行し出したのは徳川時代であるが、足利末期の頃通商のため来日していたポルトガル人が持ち込んで来た「ウンスンカルタ」と南蛮渡来の「天正カルタ」日本にあった貝合せにヒントを得たカルタは、徳川の大奥や諸大名の奥向きで、お女中の間でまず流行のトップを切り、お正月の年中行事としての二日の裁物初めそのほか、めでたい御祝儀の後ではカルタ遊びの御許しが出ていた。当時のカルタ遊びは今のように持札二五枚の個人試合はなく、大一座が双方に分れて取る源平試合が主であった。このカルタ遊びも武家の家庭は勿論、中流以上の百姓町人の家庭にもひろまり、お茶、お針等、娘様を預っているところでは、正月の初寄りのあとなどにカルタ遊びを行っていた。こうして一般庶民階級にまでしみこんだカルタは明治時代にその全盛を迎えたのである。現在のようには遊ぎ競技がない時代で、青年男女必須の教養材として、特に学生等は男女を問わずカルタをやらぬ者は話すに足りぬ野暮天とされていた。

このカルタの普及に伴い明治三七年、当時の萬朝報社の社長であった黒岩涙香氏が従来の変体仮名のカルタを総平仮名に改め、現在の標準かるたを考案し公式のかるた会が開催されたのであるが、明治四三年に行われた関東かるた大競技会では、昼は花火を打ち上げ、夜は大提灯行列を試みるなど空前の盛観をきわめたと、記録にはしるされている。こうして全国的に広まって来た競技かるたも、昭和十八年を境にして中断してしまうのだが、戦後いち早く昭和二六年に東京で全国かるた大会が開催されている。

現在全国でかるた団体は百四十を数え、登録された人員は六万人にものぼり、有段者数は五千名になると発表されている。年間を通じて行われるかるた大会も、確認されたものだけでも大小合せて三二回あり、大の百人以上から小の未満まで、各会場で日頃の練習の技量を競い合っている。

若い人達がついて来ない競技は永続性がないと云われている現代、今回宗像大社で開催されるかるた大会は、青少年の育成と情操教育を目的とした受入態勢の大きな大会である。受入側の大社の方々が日夜開催にそなえ、心をこめて諸準備を進めてあるのを見て、大会が大成功に終ることを私達は心から祈ってやまない。

九州かるた協会会長
八段 原田敬次郎

宗像大社歌会
俳句作品集（一七六）

田島　有吉　唐水
神池の鯉はねており蝉時雨
緑陰や静かに親子缶ヂュース

藤沢　玄　洋子
過ぎし日の夢かきたてる蝉しぐれ

東郷　有吉　春子
一匹の蚊にまとわれつ草を取る

土穴　八尋　恒夫
山の子もプールで泳ぐ夏休み

田熊　力丸　一郎
新涼の風は妙楽四肢伸ばす

大井　吉田ますみ
飄々と雲行く丘や吾亦紅

津屋崎　浜津　鴻浪
かまきりの飛翔の速度不安増す
昏くあかるくかまきりが飛ぶ風の中

宗像　岡田　無名
試食して巨峰狩する友の畑
片角に蚊帳吊りしまま巨峰畑

浜の寄物

最古の寄物と海の幸　（三）

いしいただし

福岡市東区志賀島では、コウライイカ（高麗烏賊）と呼ぶ。荒川好満氏によると『一般に体躯の巨大なもの、あるいはきわだった形質を持つ動物に、侮蔑と揶揄の意をこめて、仲の悪い隣国の名を冠して呼ぶ』（「採集と飼育」三四の一一）という。同区和白や奈多ではタワライカ（俵）、粕屋郡新宮町相ノ島では、ボトイカ、テッポウイカ。同郡古賀町ではバカイカ（馬鹿）。宗像郡福間町から津屋崎町にかけてはニシキイカ。同郡玄海町神湊でメオトイカ（夫婦）。同郡玄海町鐘崎から遠賀郡岡垣町波津ではヒイカ。「筑前国産物帳」のイカの項で「みづいかを、きっきょういかともいふ」（注ではアオリイカとある。）のことが記されているが、同郡大島村（大島）ではソデイカをキッキョウイカと呼んでいる。玄界の西側、佐賀県東松浦郡鎮西町波止岬付近ではタワライカ、俵をトラというのでトライカともいっている。対馬ではミノイカ（蓑）。玄界沿岸では大きさに由来したり、侮蔑した呼び名が多いが、これが山陰地方になると、島根県下府（しもこう）付近ではアカイカ。出雲地方（日御碕・大社付近）ではベニイカと呼ぶが、これは体表が赤褐色をしているところから、色による特徴で呼んでいる。

ソデイカは大きなもので胴長七五センチ、全長一・五〇メートルに達するものもあるそうだが、玄界沿岸では大きなもので、一メートル前後のものが多い。鰭は三角形状で、両側をひろげると菱形をしている。甲（背中に舟形の貝殻を持つ。普通はフネと呼ぶ。軟甲のペン）はコウイカやシシイカのように石灰質ではなく、薄質で、プラスチックを思わす剣状、その甲は胴部の長さとほぼ比例している。日本海、太平洋側ともに捕獲されている。表層性で熱帯・亜熱帯に分布し、俵とか馬鹿イカと呼ばれ、鈍重な印象を受けるが、夜間に海上を跳ねて、船にあがることもあるという。

ソデイカの漂着は十月頃から翌三月頃までで、特に十一月から十二月の間に集中している。五月頃にも漁師の網にかかるが、一〇〜一五センチ程度の小さなものだそうである。夏季にも漂着した例はあるが非常に稀である。太平洋側（房総半島沿岸）で三月〜五月に卵を持ったソデイカがとれた報告（「採集と飼育」三五の三）もある。なぜ十月から三月（特に十一月〜十二月）頃にかけてソデイカがこの沿岸に漂着するのか詳しいことはわからないが、海流説と産卵説がある。暖流に乗ってきて、北西の季節風と沿岸流で近づき、さらに波に乗って打ち上げられるのではなかろうか。

しかし私が拾った経験からすると、季節風が強いとか、海が猛烈にしけている時よりも、むしろ凪いでいて、冷え込みの厳しい時の漂着が多いのである。ただし海流の量との関係があるらしく、漂着の多少はそれと結びつくと考えられる。昭和四十二年夏にムラサキダコ（宗像郡津屋崎や福間あたりではクチナワダコとかユウレイダコと呼ぶ）が夏季に大量漂着している。多部田修氏の研究では次のように述べられている。少し長くなるが紹介してみよう。『北九州沿岸においては、そのはるか沖合を対馬暖流が北東方向へ流れ、その沿岸側に反流が形成され、さらに沿岸域には沿岸水が認められている。この対馬暖流について水温、塩分を指標としてその勢力をみると、一九六七年の四月は平年に比して一度前後低目で勢力は弱かったが、五月には一〜二度高くなり、六〜七月は水温、塩分から判断するとその勢力は平年に比して強くなった。そしてこのような傾向は八〜九月にも認められた。一般に対馬暖流の周年変化をみるとその勢力は八〜十月に最大となるが、一九六七年においてはこの最盛時に暖流の勢力は例年に比して強かったと判断される。したがってムラサキダコはこのような優勢な暖流によって例年よりも大量に運搬されたのではなかろうか。（中略）この夏にはムラサキダコだけでなく、このタコと同じ生態群に属するソデイカも漂着した。

ソデイカ　うら　おもて

そして、この近海の山口県角島においては、一九六七年十一月にソデイカが大量に海岸へ打ち上げられ、このような大量打ち上げは数年来のことであった。したがって、ムラサキダコの打ち上げがこの冬季に平年よりも多かっただけでなく、ソデイカも多かったわけである。』（「北九州沿岸における一九六七年夏季のムラサキダコの大量漂着について」九州大学農学部学芸雑誌二四の三）

また先に記したように太平洋側で三月〜五月に採捕されたものは、卵を持っていた。生殖・産卵説は雌雄対での漂着が多いところから生まれたのであろうか。私も対での漂着を見たことがあるし、神湊ではメオトイカとも呼ばれるところから対の漂着は多い。しかし単独のものや、二五〜三〇センチ程度の稚イカもあって、一概に生殖による漂着とはいえない面もありそうだ。ソデイカは表層性であるため、凪のさいには沖の方を泳いでいるのを見かけることもあるという。私の目はいつも波打ちぎわに吸い寄せられがちだが、拾い慣れたベテランは絶えず沖の方まで目を配っている。また漂着はいつでもというのではなく一時間前後で、潮の状態も大潮ではなく、中潮ぐらいが多いといわれる。私の経験からもだいたい時間帯は一致している。この沿岸で聞いたイカ拾いのポイントは、一匹拾ったら周囲を見ればもう一匹かならずいる。打ち上がる時には奇妙な声で鳴くので、その鳴き声を真似るともう一匹が寄ってくる。寒い海岸でカラスが群がっているところは注意せよ等であったが、やや誇張されたきらいがあるようだ。

昭和四十七年の十一月から十二月にかけての約一ケ月間は、ほとんど毎晩歩く。その結果、昭和五十二年十二月まで十四匹のソデイカを拾った。私は宗像郡福間町花見の苅目（かいめ）川から南は粕屋郡古賀町中川、北は福間町西郷川までの二・四キロを守備範囲にしている。しかし潮の状態や天候等によって、さらに津屋崎方面や古賀花鶴川まで足を延ばすことにもなる。

十一月になると北西季節風は一段と強く吹き、海の荒れが多くなる。その頃になると、ソデイカ情報が入ってくる。「上八（こうじょう）で一枚あがった」「津屋崎でもあがりましたバイ」と鐘崎の・橋本さんや、津屋崎の花田市右エ門さんからである。私は昼間は勤めがあるので、十一月〜十二月の一ケ月間は毎夜海ぞいを歩く。体の調子が悪い以外は雨でも風でも欠かさない。夕食が終わって三十分程度すると、いよいよ海ぎわへの“出勤”である。十一月の夜ともなれば、寒さも冷え込みも、一段と厳しい。下着や上着を含めて七枚、ズボン下二枚、それに米軍のズボンをはき、その上にビニールのカッパを着る。頭はスキー用の目出帽をかぶり、完全防寒。妻や子供たちに送られて、勇躍家を後にする。こんな格好だから近所の人に会うと体裁が悪い。しかしこの季節の六時はすでに真暗だから、車のライトに気をつけて、家から二〇〇メートルほど歩くと松林に入る。この松林を通るのが大変恐ろしい。月夜でない晩は、それこそ真暗闇、松の枝や切り株につまずいたり転んだり、松が人や色々なものに見え、風の強い時には黒や白のビニールが松に絡んで唸なり悲鳴や怒号にも聞える。

昭和四十九年十二月二十日、一晩で二匹拾ったことについて述べてみたい。例の通り暗くなったら、とりつかれたように家を出た。その日は風もあまりなく、じわじわと冷え込んでくる日であった。潮は干潮から満ちがけの状態で、月は半月である。福間の苅目川から北の西郷川河口までを歩いた。海藻類やビニール類が点々と月光に照らし出されている。西郷川まで歩き、折り返して、再び苅目川の方へ戻った。苅目川を渡って南へ約三〇メートルほど歩いたところで「あったぞ！」思わず声をあげた。光を反射してイカが打ち上げられているのだ。砂浜にイカを置き、もう一匹いないかあたりを捜す。着ぶくれとイカの重量とで、休み休みして家へ運んだ。前年のやはり十一月ごろ、福間浜を歩いていたら、二人の男が大きなソデイカを、休み休みしながら運んでいるのを見たことがある。その時、一度でいいからあんなのを拾ってみたいと思ったことがある。いま現実にそれがやってきたのだ。家にもち帰えると、驚きと歓声とが入りまじり、つい私は得意になる。それを置くと再び海岸へ。今度は古賀花見から花鶴川河口まで歩き、また戻って 西郷川へ。この間往復して、十時頃に古賀花見駅裏へきた時には、もう岸壁の二メートル近くまで潮が迫っていた。そこでまたもやソデイカを見つけたのである。八時に拾ったところから約一キロほど南側。担ぎ上げたとたん短い足でかなり抵抗し、三回ほど大きな屁みたいな音で鳴き、墨を吐き出した。さきほどのよりも大きく、二〇メートルほど歩くと休む始末である。興奮しているせいか転んだりして、やっと家へたどり着いた。八時のものは胴長四五センチ、重さ五キロだったが、十時のものは胴長六〇センチ、重さ一〇キロもあった。その夜は興奮して寝つきも悪く、うとうとしていても、ソデイカが夢の中まであらわれた。

翌日、撮影をして計測、記録にとって解体。一〇キロのものは身の厚さが四センチ。目玉は茶碗ぐらいの大きさであるから一〇センチはある。胴の部分を二十軒ばかり配り、鰭の部分は干し、足や胴の部分は塩辛にした。さらに一週間は家で毎日毎日、刺身から煮付け、塩焼き、テンプラ等にして食べた。昼の弁当にもはいっていたが「弁当のおかずまで入れんでくれ——」最後はさすがに食傷気味である。ヤリイカやコウイカのような小型のイカの持つ味のよさはなく、どちらかといえば大味。はじめて歯をつけた時の感じはなんとなく蛸を口にしたようである。イカの胃の中を調べてみたら、丁度、魚をミンチにしたようなものがつまっており、その中に小骨やウロコが見られた。小魚を食べていたのである。

こうして大物を拾うと、翌日から十二時が一時と、だんだん時間と距離はエスカレートしていき、あっちに行ったり、こっちに行ったりして、気がついたら夜が明けはじめていたこともあった。家内も「二時になっても帰ってこんと、途中で何かあったのではないかと心配で心配で、あんまり遅くならんごとネー」と悲痛な声で訴える。一度実績ができると、夜出ていく後めたさもなくなる。しかし拾った当座は、一週間ほど、打ち上げられた海藻や漂着物のすべてがイカに見えて困る。欲にかたまった私の頭の中はイカ、イカである。

〔年中人事〕

婚礼（こんれい）

結婚における儀式は時代と共に変化し、古代の女子の家で行われていた婚礼等も、聟入りは古代から平安時代、嫁入りは鎌倉時代から江戸・明治時代に行われている、さて先月号の続きを進めよう。

曳出物馬二疋その他を贈る。室町時代以後の婚礼は、嫁は白装束ー婚礼衣裳ーで胸守りをかけ、綿帽子をかぶり、供人の大上臈・小上臈の次の輿に乗り、その後にも多くの供人の輿が続く。嫁の持参の調度は貝桶・色直しの長持・御厨子・黒棚・荷唐櫃・屏風箱・行器（ほかい）などで、その他は前日までに送る。

嫁君が家を出る時門の右方で燎火（にわび）をたき、同時刻に聟君の方でも燎火をたく。聟君の方から途中まで迎えがきて輿の受け取り渡しの作法がある。

婚礼の式は聟方の待上臈と嫁方の上臈とで行われる。床に立花をし、置鳥・置鯉を飾り、瓶子一対を供え、熨斗三方・蛤の吸物などが出て三三九度の盃のことがある。当夜から三ケ日はみな白小袖を着、四日目になって色模様の服を着る、これを色直しという。江戸時代には式が終って色模様に着かえる。三日目か五日目に里帰りといって夫婦が里へ行く。明治時代以後、洋式に倣って神社で神前結婚を行い、披露宴もホテルなどで行われる場合が多くなった。

離縁（りえん）

「古事記」に伊邪那美命が、黄泉比良坂で、伊邪那岐命に事戸（ことど）を度したと伝え、「日本書記」には、このことを絶妻の誓を建つと記しているが、これは記紀時代の離縁の風習を物語っているものであろう。奈良時代の律令では、子供がないとき・婬蕩に及んだとき・舅姑に仕えないとき・多言であるとき・盗みをしたとき・妬んだとき・悪病にかかったとき、つまり七去の場合に離縁するとしている。夫は祖父母・父母の許可を得るか、親のない者は自分の意志で、棄状を書き、尊属・近親が署名した。しかし棄状が書かれても、舅姑の喪に服しているとき、結婚の当時は下賤でも、のち富貴になったとき、帰るべき家がないときは、これを三不去と呼んで夫の家を去らなくてもよかった。

また許婚でありながら、理由なく三カ月夫婦とならないとき、逃亡して一カ月になったとき、外蕃に落ちて一年も帰らないとき、徒以上の罪を犯したときは、妻が申し立てれば離縁を許した。さらに夫が妻の祖父母・父母を殴ったり、その伯叔・兄弟姉妹を殺傷したとき、或は妻がこれらを行ったときは、たとえ相手がゆるしても義絶すべきであった。

離縁された妻は、実家から持ってきた道具・衣類などはもとより、子供もつれて帰った。つまり法制の上では、当時の家族生活を基にし、儒教的倫理によって離縁があったことはいうまでもない。

平安時代には、小さな問題から別れた男女の例や、棄てられた女の恋歌が多く残っているし、参詣して復縁を念じた例も見える。鎌倉時代の初め夫から密通を訴えられた妻が、起請や参籠をして無実を証明し、婚姻のときに約束した通り、離別の際に譲られるはずの所領を得た例は、当時の女性の地位を示している。

弘安八年（一二八五）鎌倉の東慶寺を建立した北条時宗の後室覚山尼は、世の女性が邪見の夫に嫁ぎ、自ら身をあやまることが多いのを憂い、このような女性がもし寺に入ってきたときは、三カ年間かかえおき、仏事修行の意味で夫との縁を切り、その境遇から救ってやるという寺法を立て、執権貞時を経て勅許をうけた。のち東慶寺は松岡の御所と呼ばれ、俗に縁切寺といわれた。江戸時代には、追跡されたとき、下駄の片方でも寺内に投げこめば、寺法が適用された。そして媒介人を交え、夫と示談させ、成り立たないときは、入寺を許した。二、三年たったとき、寺から出て、再婚しても、前夫は干渉することはできなかった。また近世には後妻打（うわなりうち）の風習がある。

すなわち中世以後には、律令のような離婚についての規定がなかったが、近世では家父長の意志を重んじた封建社会の家族の中で、低い地位にあった女性を保護する手段も生れていたのである。密通については、古くからきびしかったが、「御定書百箇条」に、離別状を書かないで後妻を娶ったものは所払、同じく再婚した嫁は髪を剃り、親元に返し、その両親や相手の男、取持した者も過料に処すると定めている。離縁状は、前述のように古くは棄状とか、去状といった。いわゆる三行半（みくだりはん）の始まりは明らかでないが、律令の七去の半分の意味といわれ、近世ではみなこの式に習いた。

◇八月　社務日誌◇

一日
月次祭　午前十時
出光福岡支店許斐支店長参拝
臼杵運送（株）宗像神社月次祭
二日
山上婦人会清掃奉仕
三日
交通安全キャンペーン
県警本部剣道部必勝祈願祭
五日
出光石油化学矢野工場長参拝
北九州野鳥の会参拝引き続き調査の為沖ノ島渡島
八日
県警原田交通部長外十名参拝
十一・十二日
交通安全キャンペーン於城山峠
十五日
月次祭午前十時
十七日
全国青年協議会出席
十九日
国学院大学吉川学長外一名参拝
二十日
皇学館大学田中教授外五名参拝
二十一日
福岡煎茶各流五十名参拝
二十三日
宗像郡郷土芸能大会開催
事代主神社氏子総代一行参拝
二十六日
神道青年会出席於宮崎宮
県・私立高校々長会五十名参拝
九州大学岡崎教授参拝